

経済・金融 フラッシュ

ブラジル GDP(2022年10-12月期) —前期比▲0.2%とマイナス成長に

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

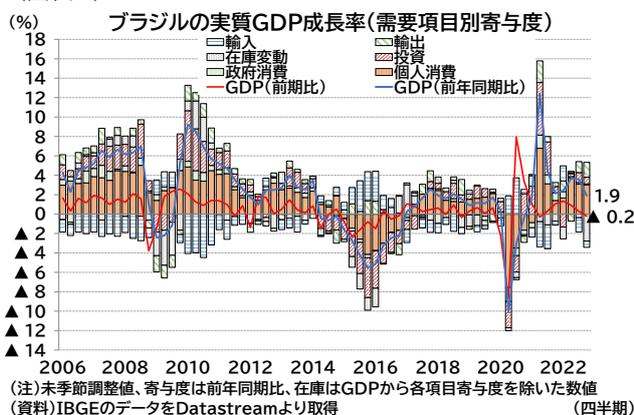
1. 結果の概要: 前期比▲0.2%とマイナス成長に

3月2日、ブラジル地理統計院（IBGE）は国内総生産（GDP）を公表し、結果は以下の通りとなった。

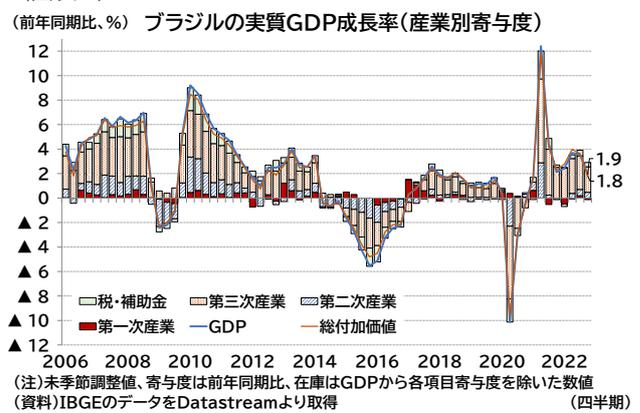
【実質GDP成長率（2022年10-12月期）】

- ・前年同期比伸び率（未季節調整値）は1.9%、市場予想¹（2.2%）を下回り、前期（3.6%）から減速した（図表1・2）。
- ・前期比伸び率（季節調整値）は▲0.2%、予想（▲0.2%）と一致し、前期（0.3%）からマイナスに転じた。

（図表1）



（図表2）



2. 結果の詳細: 消費が伸び悩み、投資は前期比マイナス

22年10-12月期の実質GDP伸び率は前期比▲0.2%（季節調整値、年率換算▲0.9%）で、21年4-6月期以来のマイナス成長となった。22年10-12月期のGDP水準をコロナ禍前（19年10-12月期）と比較すると4.1%となっている（図表4・5）。また、2022年の暦年成長率は2.9%となり、21年の5.0%から減速した。

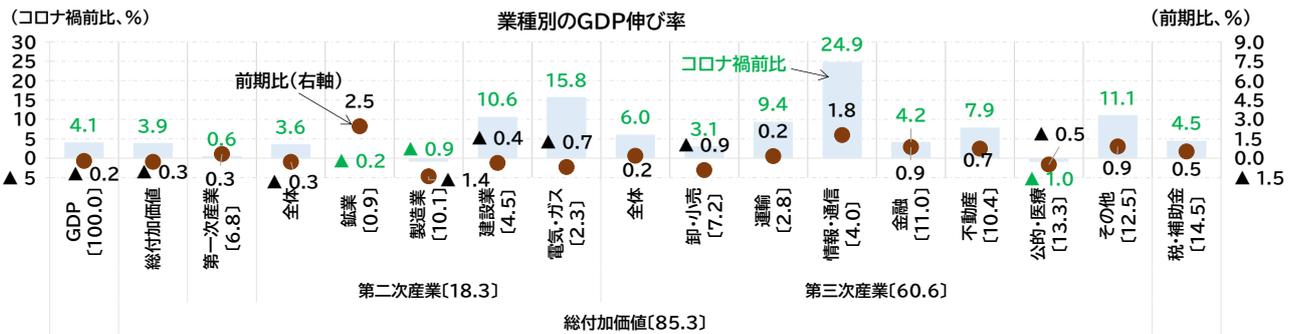
成長率（前期比）を需要項目別に見ると、個人消費が0.3%（前期：1.0%）、政府消費が0.3%（前期：1.2%）、投資▲1.1%（前期：2.6%）、輸出が3.5%（前期：3.7%）、輸入が▲1.9%（前期：5.5%）となった。消費および投資が7-9月期から落ち込み、特に投資はマイナス成長に転じ

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

ている。ブラジルでは21年以降に高インフレ進んでおり、22年4月の12.1%をピークに23年1月には5.8%まで低下しているが、伸び率は依然として高い(中銀目標は3.25±1.5%)。中銀は政策金利を22年8月にかけて13.75%まで引き上げ後、高い水準で据え置いていることから、投資の重しになったと見られる。

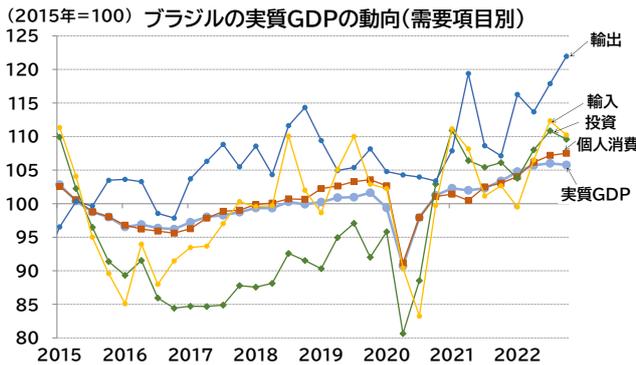
なお、コロナ禍前との対比では、個人消費が3.8%、政府消費が2.1%、投資が19.1%、輸出が12.8%、輸入が7.1%でこれまで投資が成長をけん引してきたことが分かる(図表4)。

(図表3)



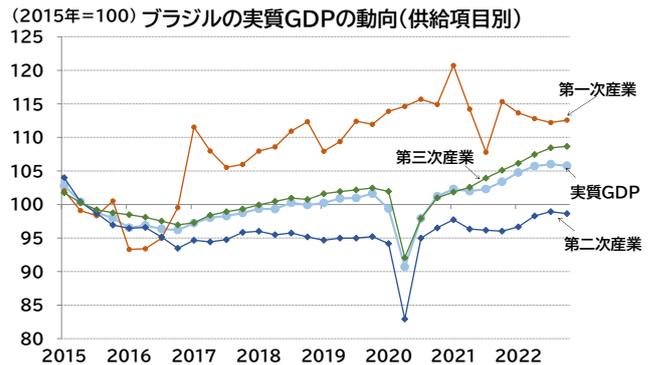
(注)カッコ内は2019年のGDPに占める各産業の割合、グラフに記載している数値(データラベル)は黒が前期比、緑がコロナ禍前比の数値(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

(図表4)



(注)季節調整系列の2015年を100として指数化(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

(図表5)

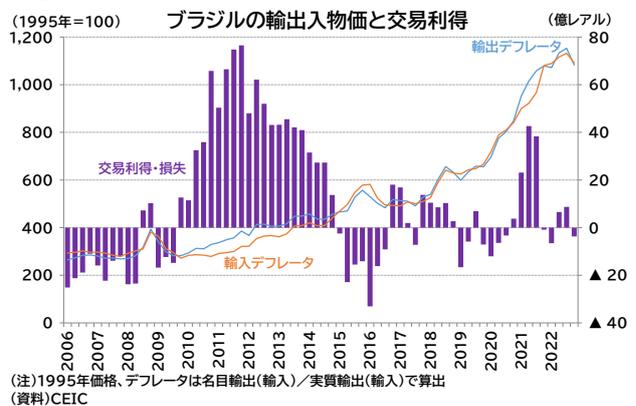


(注)季節調整系列の2015年を100として指数化(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

産業分類別に実質GDPの伸び率を見ると(図表3・5)、第一次産業は前期比0.3%(前期:▲0.5%)、第二次産業は同▲0.3%(前期:0.7%)、第三次産業は同0.2%(前期:0.9%)となり、第三次産業が伸び悩んだ事に加え、第二次産業はマイナス成長となった。より細かい業種では、第二次産業の製造業(前期比▲1.4%)の落ち込み幅が大きく、建設業(▲0.4%)や電気・ガス(▲0.7%)もマイナスだった。第三次産業でも卸・小売業(▲0.9%)や公的・医療(▲0.5%)は前期比でマイナスとなった。

22年10-12月期の名目成長率は前年同期比11.9%(前期:12.8%)となった。名目と実質成長率の差(デフレータに相当)は10.0%(前期:9.2%)とやや上昇した。また、交易条件に関しては、10-12月期は輸出デフレータと輸入デフレータのいずれも下落するなかで、わずかに悪化した(図表6)。

(図表6)



(注)1995年価格、デフレータは名目輸出(輸入)/実質輸出(輸入)で算出(資料)CEIC

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。